

広島高等検察庁 発行

検察官ってどんな人？

～ 憲法週間とは ～

5月3日の憲法記念日を含む5月1日から7日までの1週間で憲法週間とよんでいます。

憲法週間では、憲法の精神や司法の機能を国民の皆さんに理解していただくことを目的として、全国の裁判所や弁護士、検察庁などが様々なイベントを行っています。ここでは広島高等検察庁と広島地方検察庁の職員へのインタビュー記事を紹介します。



『もみじちゃん』

裁判員制度のPRのために生まれた広島高等検察庁独自のキャラクター



広島高等検察庁 総務部長

かとう ゆう
加藤 裕 検察官



自己紹介

広島高等検察庁総務部長の加藤裕と申します。私は、昭和40年（1965年）生まれで、平成5年（1993年）に検察官（検事）に任官しました。出身地は埼玉県です。広島高等検察庁には、昨年7月に着任しました。広島に勤務するのは今回が初めてですが、母が福山市出身なので、幼いころから広島県内の各地を訪れたことがあり、なじみのある土地です。趣味は、野球をはじめとするスポーツ観戦ですが、広島に来てからはもっぱらテレビ観戦のみで、まだマツダスタジアムには行っておりません。コロナ終息後の楽しみにしておきます。



高等検察庁ではどのようなお仕事をされているのですか。

高等検察庁は、全国に8か所あり、高等裁判所で行われる裁判を担当するほか、それぞれの管轄区域内の地方検察庁や区検察庁を指導・統括する仕事をしています。広島高等検察庁の管轄区域は、中国地方の5県です。私自身は、現在、総務部長という役職なので、事件捜査や裁判という検察官の一般的な仕事からは離れており、これらを支える裏方的な仕事をしています。広島高等検察庁の総務部には、企画調査課、検務課、検察監査官（室）という3つの部署があります。



検察官としての仕事のやりがいや面白みはどんなところにありますか。

検察官は、事件の真相を解明し、罪を犯したと疑われる人を裁判にかけるかどうかを決め、裁判にかけた場合は、裁判で犯罪を立証し、適正な処罰を求めるのが仕事です。事件の真相を解明することができれば、真に処罰されるべき人を処罰することができ、社会の治安を保つことができます。したがって、検察官の仕事のやりがいや面白みは、事件の真相を解明するために知恵をしぼることだと思います。しかし、当然ながら、いつもうまくいくわけではなく、試行錯誤の繰り返しです。

事件の真相を解明

するため

試行錯誤の日々



広島高等検察庁の職場はどのような雰囲気ですか。

検察官は、1人1人が国を代表して仕事をするようになっていますが、よい仕事をするためには、みんなで知恵を出し合って協力し合うことがとても大事ですので、それぞれが周囲の人に相談したり、教え合ったりしながら協力して仕事をしています。

仕事の内容は、間違いがあってはならない厳しいものですが、検察官も、それを支える検察事務官も、緊張感を持ちながらも、明るく楽しい雰囲気で行きわたる仕事をしています。



印象に残っている仕事を教えてください。

検察官として長く事件捜査や裁判に携わってきたので、印象に残る事件はたくさんありますが、事柄の性質上、その中味について詳しくお話することはできません。ごく抽象的にお話しすると、大きく報道されたある組織的な事件の主犯格の取調べを担当したことがあったのですが、その事件が後に映画化されたことがありました。その映画の中の主犯格は、実物と確かによく似ていましたが、実際とは違った点もありました。それが何であったのかは、当時その事件の捜査に携わった人たちだけの一生の秘密です。

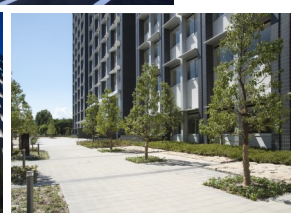
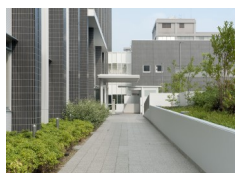
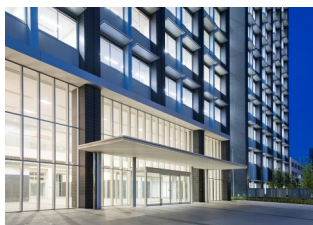


憲法週間を迎えるに当たって

憲法は、この国の在り方を決めた最高法規で、全ての法律の上に立つものです。

平和主義を定めた第9条が有名ですが、憲法の基本原則は、ほかにも基本的人権尊重主義と国民主権主義があります。

現在の我が国は、言論の自由が認められ、自由に意見を述べ合った上で、全ての成人国民による普通選挙で選ばれた議員で構成される議会が法律を作る民主主義国家ですが、これは憲法に根拠があります。このような国に生まれ育った私たちにとっては、当たり前に見えることですが、世界には、そうではない国も少なくありません。したがって、憲法は、一人一人の国民が、大切に守っていかなければなりません。



検察官に聴いてみよう

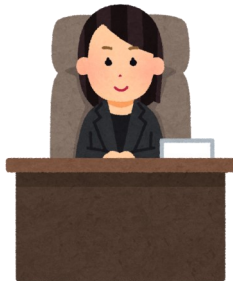
～ 検察官ってどんな人なの ～

広島地方検察庁

A 検事



B 検事



広島地方検察庁で勤務されている検察官のA検事とB検事にお仕事などについて僕がお話を伺います。



ハウリス君

法務省法教育マスコット
キャラクター

◇自己紹介

質問 今日はよろしくお願いします。まず、自己紹介をお願いします。

A 検事

私は、平成22年に司法試験に合格し、平成23年に検事に任官しました。

大阪地検、東京地検、盛岡地検などで勤務し、平成31年4月から広島地方検察庁で勤務しています。

B 検事

私は、平成24年に司法試験に合格し、平成25年に検事に任官しました。

大阪地検や東京地検などで勤務し、平成31年4月から広島地方検察庁で勤務しています。司法修習生として広島で実務修習しました。



広島地方検察庁

◇志望理由

質問 どうして検察官になろうと思ったのですか？

A 検事

司法試験を受けた時点では弁護士になるんだろうなという気持ちでいました。試験に合格し、司法修習生という身分で裁判所、検察庁、弁護士事務所で研修する機会があるのですが、そのとき、一つの仕事に真剣に向き合い、事実関係を明らかにしていくという姿勢に共感して、検察官になろうと思いました。

B 検事

もともと弁護士になろうと思っていましたが、広島地方検察庁で修習していたとき、被害者のために仕事ができることはもちろん、被疑者が二度と犯罪を犯さないようにするためにはどうしたらいいのかも考えながら検察官が仕事をしているところに魅力を感じたのがきっかけでした。また、事件の真相に一番近づけるのも検察官の仕事かなと考え、検察官を目指しました。

◇仕事の内容

質問 現在、どのような仕事をされているのですか？

A 検事

刑事部という部署で、殺人事件などの重大事件を捜査して被疑者の処分を決めるという仕事をしています。また、被疑者を弁護する弁護人のほか、被疑者が社会復帰する場合に備えて保護観察所の保護観察官などと被疑者の生活環境を調整するなど、様々な機関と関わりを持ちながら仕事をしています。

B 検事

公判部という裁判を担当する部署で働いています。検察官は、裁判において、被告人（起訴された人）が犯罪を行ったことをいろいろな証拠によって証明し、適正な刑罰の言渡しを求めます。裁判官、被告人を弁護する弁護人と裁判の進め方などについて協議することもあります。また、裁判員裁判では、分かりやすく正確な主張や立証をするために言葉や表現などを工夫し、裁判員に審理の内容を十分に理解していただくよう心掛けています。

◇検察官の仕事について

質問 検察官の仕事とはどのようなものですか？

A 検事

私は、検察官の仕事というのは、罪を犯した被疑者・被告人、被害を受けた被害者という対立する当事者双方から話を聴き、事件の真相を解明した上で、事件に見合った結論を考えるという意味で非常にやりがいのある仕事だと思っています。例えば、人が殺されたという事件では、金品を強奪する目的の強盗殺人から親が虐待をしていた子供を殺害する殺人事件まで、その動機や目的は様々です。検察官として、なぜこのような事件が起きたのかを明らかにすることは決して簡単なことではありませんが、残された証拠から読み取れる事実を認定して、被疑者や関係者から何度も話を聴くことで事件の内容が徐々に明らかになっていくのは大きな達成感を得られますし、それによって、被害者やその遺族の方から感謝されることは本当に苦勞が報われた気持ちになります。

仕事自体は責任ある内容ですが、決して仕事で日々忙しいというわけではありません。私には幼稚園児と生まれたばかりの0歳児の2人の子供がいますが、幼稚園の送りをする必要があるので、仕事と育児の両立のための制度の一つを利用して勤務開始を10時にしています。さらに、毎週金曜日に休暇を取り、生まれたばかりの子供の育児へ積極的に関わっています。



B 検事

私は、これまで小さな子供が被害者となる事件を多く担当しましたが、捜査や裁判において、つらい思いをした子供から話を聴くというのは検察官にとってつらく、難しい仕事です。子供の将来に向けて傷を残さないようにするにはどうしたらいいのかを考えながら捜査し、裁判に臨みました。つらい仕事でしたが、子供から感謝の言葉をいただいたことがあり、そのときは、やりがいを感じましたし、検察官の道を選んで良かったと思いました。

検察官は起訴・不起訴の判断という大きな権限を持っています。被害者の声に耳を傾けながら、証拠を十分に検討した上で、自分の責任において判断するという点は、検察官の仕事の醍醐味であり、魅力だと思っています。



◇職場の雰囲気

質問 お二人が働いている職場はどのような雰囲気ですか？

A検事

私は、司法修習生として検察庁で研修するまでは、検察庁という職場は何をしているのかよく分からず、どちらかというと硬い雰囲気の職場なのだろうなああと勝手に想像していました。しかし、実際には、非常に活気のある、職員が事件の解明に向かって一緒に協力していこうという良い雰囲気の中で仕事をさせてもらっています。

B検事

私のいる公判部では多くの検察官、検察事務官が働いています。検察庁の仕事はチームで動いています。そのため、先輩、同僚、後輩とたくさん話をし、アドバイスをもらったり、自分が気付かなかった点を指摘してもらえます。このように自分の意見を持ちつつ、他の人の意見もうまく取り入れながら楽しく仕事をしています。

◇検察官のバッジ

質問 検察官が付けられているバッジのデザインについて教えてください。

A検事

検察官のバッジの形は紅色の旭日に菊の花びらと葉があしらってあり、その形が霜と日差しとの組合せに似ていることから厳正な検事の職務とその理想像とが相まって「秋霜烈日（しゅうそうれつじつ）」と呼ばれているようです。



B検事

「秋霜烈日」とは、秋におりる霜と夏の厳しい日差しのことで、刑罰や志操（動かぬ志）の厳しさにたとえられています。

◇憲法週間について

質問 憲法週間に当たって、インタビューを御覧になっている方へメッセージをお願いします。

A検事

憲法週間（5月1日～5月7日）は、憲法の本質や司法の機能に対する理解を深めていただくための週間です。

B検事

広島地方検察庁では、司法の場で検察庁がどのような役割を果たしているのか、どのような仕事をしているのか広く知っていただくために、他の機関とも協力しながら、いろいろな取り組みを行っています。



いかがでしたか。お二人とも気さくな方でしたよ。
インタビューを読んでもいただき、検察官の仕事のことなどについて理解を深めていただけたらうれしいです。
最後まで御覧いただき、ありがとうございました。